

(様式1・小学校用①)

令和5年度 学 校 評 価 報 告

草加市立八幡小学校

(令和6年1月18日作成)

1 学校教育目標 勉強する子 良い子 強い子	
2 重点目標・努力目標 <ul style="list-style-type: none">・やる気で勉強する子の育成・はっきりあいさつする子の育成・たくさん運動する子の育成	3 前年度の成果と課題 <p>成果</p> <p>○校内研修では、指導者を招聘した研究授業を5回、校内ブロックでの研究授業を3回開催し、指導力向上に努めた。「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を取り入れながら、本校の振り返りを大切にした授業スタイルを作り上げていくことで、児童の表現力の向上、意欲につながってきている。</p> <p>○これまでの研修で積み上げてきたものや読書活動を推進したことの成果が表れ、児童に読む力が身につけてきている。</p> <p>○コロナ禍で制限がある中でも、感染症対策を取った上で実施方法を工夫しながら行事や教育活動を進めることができた。学校運営協議会やPTA、地域と連携し、50周年を祝う会をはじめとする周年行事の取り組みや、防災教育の視点で新たな形で始めたやはた祭をバージョンアップしながら開催することができた。</p> <p>課題</p> <p>●タブレットをはじめとするICT機器についてより効果的な活用を進めるとともに、情報モラル教育についても引き続き指導を行っていく。</p> <p>●研修を進めていく中で、授業スタイルを確立し、教員一人一人の授業力の向上を図る。</p> <p>●スポーツタイムや縄跳びチャレンジをはじめとする体力向上の取り組みを工夫し、児童が意欲的に体力づくりに励むことができる環境を整えていく。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○職員が一丸となりアフターコロナの取組を充実させることができた。 ●教育時数の見直し等、業務のバランス等を見直し、負担軽減を図る。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○市の研究委嘱に川柳中学校区で取り組み子どもの自己肯定感、自己有用感を大きく育んだ。 ●充実した取り組みを次年度にしっかりと引き継いでいく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○日々の安全点検や健康観察が、適切に実施され、安全安心な学校づくりができた。 ●引き続き、高い意識を持ち学校事故0の継続を行う。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報の取扱い等、職員で共通理解し、適切な管理を行うことができた。 ●空き教室等の整理整頓、有効利用に取り組む。

⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<p>OPTAと各地域の町会、市と連携を図り、やはた祭を昨年度に続き開催し、充実した取り組みが行えた。</p> <p>●さらなる情報発信を検討し、充実させていく。</p>
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	A	<p>○目指す子ども像を共有し、市の研究委嘱を通して幼保小中一貫教育に一丸となり取り組むことができた。</p> <p>●アフターコロナでの行事の見直しや実施を引き続き行う。</p>

(様式1・小学校用②)

草加市立八幡小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○学校教育目標が周知され、学校、保護者、地域が連携し教育活動を行うことができた。</p> <p>●授業時数を適切に確保するとともに働き方改革とリンクさせた時数の見直しが必要である。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○授業スタンダードの共通理解を図り、分かりやすい授業を実施した。</p> <p>●指導計画の見直しと評価の充実が課題となる。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○毎学期の親子道徳が充実し、家庭との連携が引き続き取れている。</p> <p>●「考え議論する道徳」のさらなる充実に取り組む。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<p>○ALTと連携し、児童が楽しみながら外国語に親しむことができています。</p> <p>●適切な評価について、さらに検討し実施していく。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<p>○アフターコロナの視点で行事を見直し、活動を充実させることができた。</p> <p>●働き方改革を視野に入れ、引き続き行事の精選を行う。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○ICTの活用や体験的な活動を充実させ取り組むことができた。</p> <p>●アフターコロナでの外部人材活用を充実させていく。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<p>○職員がチームとして、共通理解のもと、生徒指導に取り組むことができた。</p> <p>●地域へのあいさつがよりできるよう指導、取組を充実させる。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<p>○社会や特別活動、総合的な学習の時間でのキャリア教育の充実に取り組めた。</p> <p>●保護者への周知等、取組の発信を充実させる。</p>

⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○特別支援コーディネーターを中心に、校外から指導者を招聘し、研修を充実させ、児童への指導に生かされた。</p> <p>●諸機関とさらに連携を取り、さらなる支援の充実が行えるようにする。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<p>○引き続き、年間50冊以上を目標とし、校内でのビブリオバトルの開催、図書委員会の取組により、読書に親しむ児童の育成ができた。</p> <p>●引き続き、家庭と連携し、読書に親しむ児童の育成に取り組んでいく。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○タブレットを使つての学習がより定着し、欠かせない学習ツールとなっている。</p> <p>●プログラミング教育、情報モラル教育の推進に取り組む。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<p>○人権作文や標語に引き続き取り組み、新しい人権問題等にもふれ、考える機会をもち、人権教育に取り組んだ。</p> <p>●今後も、情報を更新し、人権について学ぶ児童の育成に取り組む。</p>

(様式1・小学校用③)

草加市立八幡小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①学力向上への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な学力向上 ・校内研修の充実 	A	<p>○全国学力学習状況調査は、国算ともに国と県の平均正答率を上回った。また、埼玉県学力・学習状況調査においても全学年で県の平均正答率を上回った。昨年度と比べて、大きな伸びが見られた。</p> <p>●校内研修をさらに充実させ、学力向上に取り組む。</p>
	②体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の工夫改善 ・年間指導計画の改善 ・授業外活動の推進 	B	<p>○新体力テストの結果より、総合評価A+B+Cの児童の割合が県平均より+4.1%上回り、日頃の体力向上の取組の成果が見られた。</p> <p>●上体起こし、ボール投げに関しては引き続き課題がある。</p>
	③規律ある態度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活での取組 ・家庭との連携 	B	<p>○保護者・教職員アンケートの結果より、肯定的な意見が8割近くの高い成果を上げ、充実した取り組みができていているといえる。</p> <p>●アンケートでは改善が見られるが、地域へのあいさつが引き続き課題となる。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

○草加市の研究委嘱を受け、幼保小中を一貫した教育にかかわる研究発表について、事前の研究授業や同じ中学校区の研究授業会への参加など、全職員が一丸となり、研究委嘱に取り組み、指導力の向上に取り組めた。また、アンケートの結果より、川柳中学校区の子どもの自己肯定感・自己有用感に関して明らかな伸びが見られた。

○年間50冊以上の読書量の目標や、学校全体で取り組むビブリオバトル、図書委員会を中心とした読書にかかわる活動の充実により、自然に読書に親しむ児童が多く見られるようになっていく。

○アフターコロナの取組として、行事の精選を行いながら、働き方改革もふまえた行事の実施を行うことができた。また、PTAと各町会との共同で実施したやはた祭もさらに充実した取り組みとなった。

○長年地域を見守り続けていただいた、スクール・ドリーマーとみはるくんのシラコバト賞、市政功労賞を受賞と学校の安全を見守る活動が評価されるなど地域との連携の強さが見られた。

6 次年度の改善策

●プログラミング教育、情報モラル教育のさらなるICT機器の活用について校内で検討し、実施していく必要がある。

●今年度成果を上げた、幼保小中を一貫した教育の成果を次年度に引き継ぎ、川柳中学校区の子ども達の自己肯定感・自己有用感の育成に取り組む。

●新体力テストで課題となっている項目も含め、引き続き児童の体力向上にかかわる取組の実施を行う。